

CAMPAIGN

## Korean Dream 10 Million Campaign

「自由で統一されたコリア」のためのサポート  
キャンペーン（オンライン署名）にご協力ください！

簡単な署名で  
サポート！



コリアン・ドリームは、自由、人権、共栄という原則に基づき、平和で統一された朝鮮半島を構想しています。弘益人間（「人間社会に広く益をもたらす」の意味）という古朝鮮の建国精神に根ざし朝鮮半島を和解と協力の世界的シンボルに変えることを目指します。「コリアン・ドリーム1000万人キャンペーン」は、全世界で1000万人の支持者を結集させ、朝鮮半島の平和と統一を求める世界的な声を上げることを目標にしています。希望の未来を築くために、この世界的ムーブメントに参加してください。あなたのご支援が朝鮮半島の平和を現実のものにします。



EVENT

## 多文化おもてなし フェスティバル総会



2025年3月15日（土）「多文化おもてなしフェスティバル総会」を行いました。この企画は、10周年・10回目となる今年、改めてフェスティバルの“ゴール”を見つめなおし、それを肌で感じる機会を作るために行われました。

総会には実行委員はもちろん、これまでフェスティバルに参加したパフォーマーや、初めてフェスティバルのことを知った方々も参加しました。

総会では、主に3つのことを行いました。①フェスティバルの背景とゴール & 続けてきて感じる喜びのシェア ②皆さんの活動を通じて“違いを越えて一つになった”体験のシェア③違いを越えて一つのものを作ってみよう



後藤亜也（GPF Japan代表理事）

「このフェスティバルを作り上げるプロセスを通して、参加する人たち同士の絆が深まることをずっと目指してきました。なぜなら私たちが考える平和構築とは、“信頼ある人間関係を築くこと”だからです。」

「多文化おもてなしフェスティバルとは、まさに皆さんのことです！フェスティバルがゴールなのではなく、その向こうにある“One Familyの関係を築くこと”こそが、フェスティバルを通じて実現させたいことです。」



飯田和広  
(GPF Japan事務局長)



参加者同士でシェア会では、あらゆる背景を持つ人たちが、自分たちの活動や、それを経て感じたことなどを話しながら、それぞれの“One Family体験”を共有してくれました。

### ■ 違いを超えて一つのものを作ってみよう！



最後に、初回からずっとフェスティバルを支えてきた「フィリピン初の演歌歌手」であるヨランダ・タシコさんがリードしながら、今年のフェスティバルのエンディングについての話し合い。「話し合い」と言いつつ、音楽と共に自然と体が動いてしまう皆さんでした。第10回となる今年の「多文化おもてなしフェスティバル」は、11月16日（日）に開催！会場は昨年同様、浜町イベントホール・プラザマーム。ぜひ、世界中から集まった仲間たちのOne Familyの文化を体験しに、きてくださいね！

NOTICE

4月19日（土） 脱北者・川崎栄子さんの体験から普遍的な人権と平和を考える  
（第11回ピース・デザイン・フォーラム）

- 日時：2025年4月19日（土）
- 会場：野方区民ホール
- 参加費：2000円
- アクセス：西武新宿線野方駅南口から徒歩3分



申込みフォーム

AI生成：尹大統領拘束



## 韓国の社会分断は極に達す

戦後80周年、日韓外交正常化60周年を迎えた今年、韓国社会が揺れに揺れています。GPF Japanでは朝鮮半島の平和統一を通して冷戦の残滓を取り払い、北東アジアの平和構築への道を大きく開く「コリアンドリーム」をサポートしてきました。かねてから2025年は平和統一へ向けたビッグイヤーという位置付けでしたが、その為を超えるべき関門として韓国社会の分断が浮き彫りになっています。

昨年12月3日、尹錫悦大統領が突如として発した非常戒厳。年が明けると大統領が内乱罪の容疑で拘束・逮捕。ユン大統領の拘束にあたっては、捜査官100名

が大統領公邸の敷地に入るも、それを200名の大統領警護庁職員が防ぐという場面がありました。同じ大韓民国の公的機関同士が対立して対峙し、一触即発の様相を呈するというのは、国家機能が麻痺する直前まで達した危機的状況に見えました。冬のソウルの漢江が凍る寒さの中、大統領弾劾に賛成する市民、反対する市民が街に溢れてデモを繰り広げ、韓国社会を二分して今日まで続いています。

通常、国家というものは国の方向性やビジョン、善悪の判断などについて、大半の国民がある程度は同意した上で憲法が定められ、出発するのが望ましいと言えます。しかし現在の韓国は保守と進歩、両陣営の主張する正義が大きく食い違い、話し合うこと自体が難しくなっており、正に社会が「分断」されているように見えます。このように分断が極に達した状況では、その分断の原因そのものを取り除き、乗り越えることを考えなければ、大韓民国がこれから一歩も先に進むことができないと言えるでしょう。

## 韓国社会の分断の根本原因は南北分断

戦後の韓国の歴史は、日本のそれと比べて、非常に過酷な道だったと言えるかも知れません。終戦と共に日本の併合植民地状態からは解放されたわけですが、すぐに冷戦に巻き込まれ、民族の意思とは無関係に分断されました。ちょうど東西両陣営が衝突する地点に朝鮮半島が位置していたという地政学的な条件も不幸な方向に働いたと言えるでしょう。その後、同族同士が戦った朝鮮戦争では300万人以上とも言われる死者が生まれました。国中が廃墟あるいは難民キャンプ状態から再建の努力をしてきましたが、常に北朝鮮の南侵を警戒し、さらに奥にはソ連や中国が控えているという状況下では、安心して健全な国家の成長を遂げるには、あまりにも環境が厳しかったと言えます。

実際に北朝鮮による工作活動も韓国国内で活発に行われており、政府と国民が、あるいは国民同士が疑心暗鬼になり、たくさんの対立、弾圧、逮捕、拷問、冤罪、デモなどを生み、ようやく民主化を成し遂げたのが、なんと1987年のことです。日本では戦後、直ちに民主化されてスタートしたのと比較すると、あまりに長く険しい道に感じます。

このように見てみると、冷戦下で大韓民国が置かれた地政学的な状況、特に同族同士が分断されており、強く統一を願いながらも相容れないイデオロギーの対立が横たわっているという、何とも言えない十字架を背負ってきた中で、独裁政権と民主化勢力の根深い対立が形成されてきた過去があります。

今日の保守・進歩両派はいずれも民主主義の枠内にあるとは言え、分断のルーツは過去の極端な状況下で生まれ、今日まで引きずってきていると言えそうです。つまり韓国社会の分断の根っこは、南北分断にあります。日本でも「右・左」という発想が強く残っていますが、韓国では冷戦の残滓が国内状況により色濃く影響を与えているのです。

## 市民一人ひとりが動く時、社会変革が起きる

韓国の民主化は、市民の手によって成し遂げられました。1987年1月14日、民主化運動に参加していた朴鍾哲さん（ソウル大学生）が、警察の取り調べに口を割らず、拷問の中で死亡しました。警察は隠蔽を計りましたが、担当した医師の告発によって事実が明るみに出ました。これによって市民に火がつき、6月民主抗争では全国でデモが行われ、500万人が参加したと言われています。

市民一人ひとりが立ち上がる中、1987年6月29日、ついに全斗煥大統領は大統領の直接選挙制導入を約束するなど、「6・29民主化宣言」を発表するに至ったのです。

東ヨーロッパの民主化運動然り、中東の民主化運動然り、大きな社会変革は政治的リーダーだけの手によって成し遂げられるのではなく、むしろ市民一人ひとりの手によってこそ成し遂げられてきました。ソーシャル・ネットワークが発達した現在、小さな一人の市民が社会全体に影響を及ぼす可能性は、かつてなく広がっています。

現在韓国の街路には、国の未来を心配する若者が溢れています。これまでは市民の対立が政治によって煽られてきましたが、今度は市民が主体になり、保守・進歩という既成の政治的枠組みを超えたところで、新しい一致点を見出していくことが期待されます。そしてその時、韓国が朝鮮半島の平和統一に向けて進み始めるのではないのでしょうか。



AI生成：6月民主化抗争



朝鮮半島平和統一を願って行進する市民達  
2024年9月28日イムジンカク

## 一般社団法人 グローバル・ピース・ファウンデーション・ジャパン

東京事務局

住所 〒150-0032 東京都渋谷区鶯谷町7番7号 O・Hビル401号室

TEL 03-6416-5435 FAX 03-6416-5436

E-mail japan@globalpeace.org

仙台オフィス

住所 〒980-0011

仙台市青葉区上杉1丁目12-20-207

TEL 090-8546-7806